

流域治水プロジェクトのイメージ

【参考事例】

- ・ 一宮川水系流域治水プロジェクト
- ・ 海老川水系流域治水プロジェクト
- ・ 都川水系流域治水プロジェクト
- ・ 南白亀川水系流域治水プロジェクト
- ・ 作田川水系流域治水プロジェクト

○ 令和元年10月豪雨で甚大な被害が発生した一宮川水系では、大規模水害を契機とした中小河川の流域治水プロジェクトとして、以下の取り組みを一層推進していくことで、今次水害やそれを上回る規模の洪水に対して、流域における浸水被害の軽減を図る。



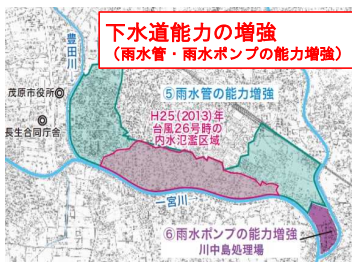
流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を推進するため、令和2年12月21日に一宮川流域治水協議会を設置。協議会の下に市町村部会を設置し、地域住民と県・市町村が一緒に、流域対策の具体化を検討。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
・ 河道改修、輪中堤整備
・ 調節池の設置、遊水地
・ 竹木の伐採、堆積土の撤去
・ 内水対策(下水道、貯留施設)
・ 各戸等の雨水貯留浸透対策
・ ため池、水田の雨水貯留等

■ 被害対象を減少させるための対策
・ 建築の構造規制・誘導
・ 耐水構造化の促進
・ 浸水防止用設備の促進
・ 二線堤整備 等

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
・ 浸水想定区域図、ハザードマップ作成
・ 危機管理型水位計、監視カメラ設置
・ 水害対応タイムライン作成
・ マイ・タイムライン作成
・ 流域治水に関する啓発・教育
・ 流域治水に対する経済的支援 等

【凡例】
令和元年10月豪雨 浸水範囲
流出抑制しているため池
事業中
今後、河川整備計画に具体的な箇所を位置づけ



※ 具体的な対策内容については、今後、調査・検討等により変更となる場合がある。

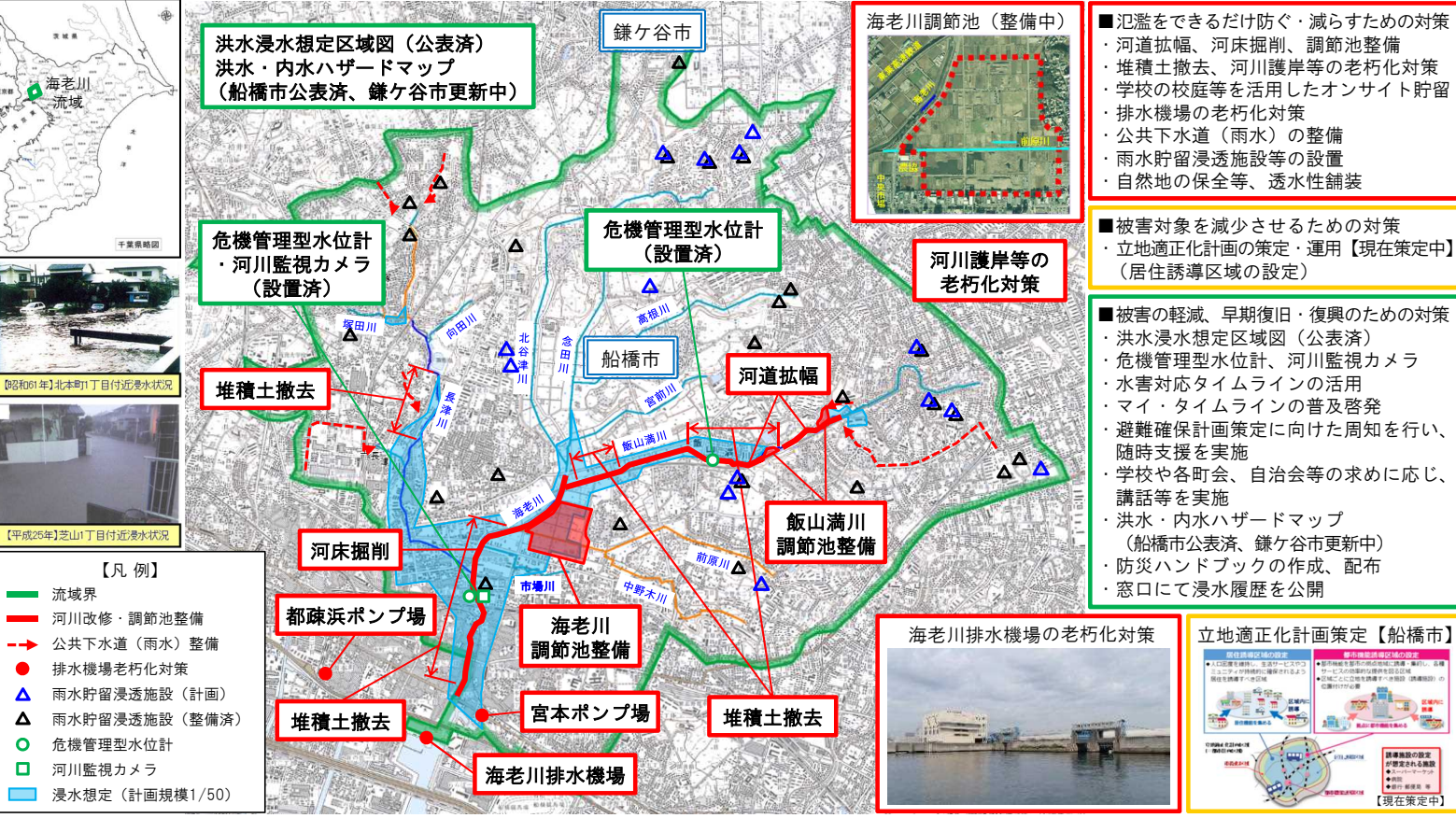
- 一宮川水系流域治水プロジェクトのロードマップは、以下のとおりとする。
 - 【令和6年度末迄】 一宮川中下流域※1における河道拡幅及び調節池等を完了させ、市街地での内水対策、人命を守る対策を実施するとともに、先行する地区において、浸水深を低減させる対策や洪水氾濫時の浸水被害を防止・軽減する対策を実施する。
 - 【令和11年度末迄】 一宮川上流域※2及び阿久川、豊田川、三途川、水上川における河道改修及び調節池整備等を完了させるとともに、人命を守る対策、浸水深を低減させる対策や洪水氾濫時の浸水被害を防止・軽減する対策を実施する。
 - 【中長期】 上記流域対策を実施するとともに、長期的に取り組む流域対策について検討・調整を行う。

- 上記対策による目標は、以下のとおりとする。
 - 気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、一宮川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる
 - 令和元年豪雨と同規模の降雨に対して、家屋及び主要施設(役場、要配慮者利用施設等)は、浸水被害ゼロ※3(～R11)
 - ※3 一宮川水系流域治水プロジェクトのうち、河川整備と内水対策、土地利用施策が連携した「一宮川流域浸水対策特別緊急事業」の目標なお、上流域・支川については、一宮川上流域・支川における浸水対策検討会及び地元意見交換会における地域の意見を踏まえて、家屋や役場、要配慮者利用施設の床上浸水被害の解消を目標とした浸水対策(案)をとりまとめ、流域市町村長と県からなる一宮川流域減災対策会議にて合意された。
 - 県内河川の整備水準程度の降雨※4に対して、外水氾濫させない(遊水機能を保持する区間を除く)(～R11)
 - ※4 県内河川において20～30年間で計画的に実施する河川整備の目標である年超過確率1/10の降雨(一宮川上流域で時間最大雨量50mm、一宮川流域平均で時間最大雨量30mm程度)

【事業費(R2年度以降の残事業費)】
■ 河川整備
全体事業費:約204億円※
対策内容:河道拡幅、調節池整備等
※ 上流域・支川の河川整備分を今後追加

区分	対策内容	実施主体	工程		
			令和6年度末迄	令和11年度末迄	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための主な対策	中下流域の河道拡幅、調節池整備等	千葉県	令和6年度末までに実施		治水機能の強化 気候変動への対応の検討
	上流域の河道改修、調節池整備等	千葉県	令和4年度から事業化、令和11年度末までに実施		
	竹木の伐採、堆積土の撤去	千葉県	令和6年度末までに重点的に実施	治水機能の維持	治水機能の維持
	内水対策(ポンプ増強、貯留施設等)	市町村	令和元年水害対策を令和11年度末までに実施		対策の強化
被害対象を減少させるための対策	ため池、水田の雨水貯留等	流域関係者	先行する地区での対策	流域に水平展開	対策の継続
	建築の規制・誘導等	流域関係者	先行する地区での対策	流域に水平展開	対策の継続
	二線堤、集団移転等	流域関係者	先行する地区での対策	流域に水平展開	対策の継続
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	浸水想定区域図、ハザードマップ公表	県・市町村			
	危機管理型水位計、監視カメラ設置	千葉県			
	水害対応タイムライン、マイ・タイムライン	流域関係者		早期着手、対策の継続	
	流域治水に関する啓発・教育	流域関係者		早期着手、対策の継続	
	流域治水に対する経済的支援等	流域関係者			中長期的に取り組む

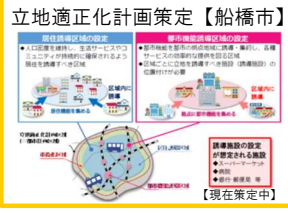
令和元年10月豪雨をはじめとする近年の激甚な水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、海老川水系において、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速していくために、以下の取り組みを実施していくことで、年超過確率1/10程度（時間雨量約50mm）の規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・河道拡幅、河床掘削、調節池整備
 - ・堆積土撤去、河川護岸等の老朽化対策
 - ・学校の校庭等を活用したオンサイト貯留
 - ・排水機場の老朽化対策
 - ・公共下水道（雨水）の整備
 - ・雨水貯留浸透施設等の設置
 - ・自然地の保全等、透水性舗装

- 被害対象を減少させるための対策
 - ・立地適正化計画の策定・運用【現在策定中】（居住誘導区域の設定）

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 - ・洪水浸水想定区域図（公表済）
 - ・危機管理型水位計、河川監視カメラ
 - ・水害対応タイムラインの活用
 - ・マイ・タイムラインの普及啓発
 - ・避難確保計画策定に向けた周知を行い、随時支援を実施
 - ・学校や各町会、自治会等の求めに応じ、講話等を実施
 - ・洪水・内水ハザードマップ（船橋市公表済、鎌ヶ谷市更新中）
 - ・防災ハンドブックの作成、配布
 - ・窓口にて浸水履歴を公開



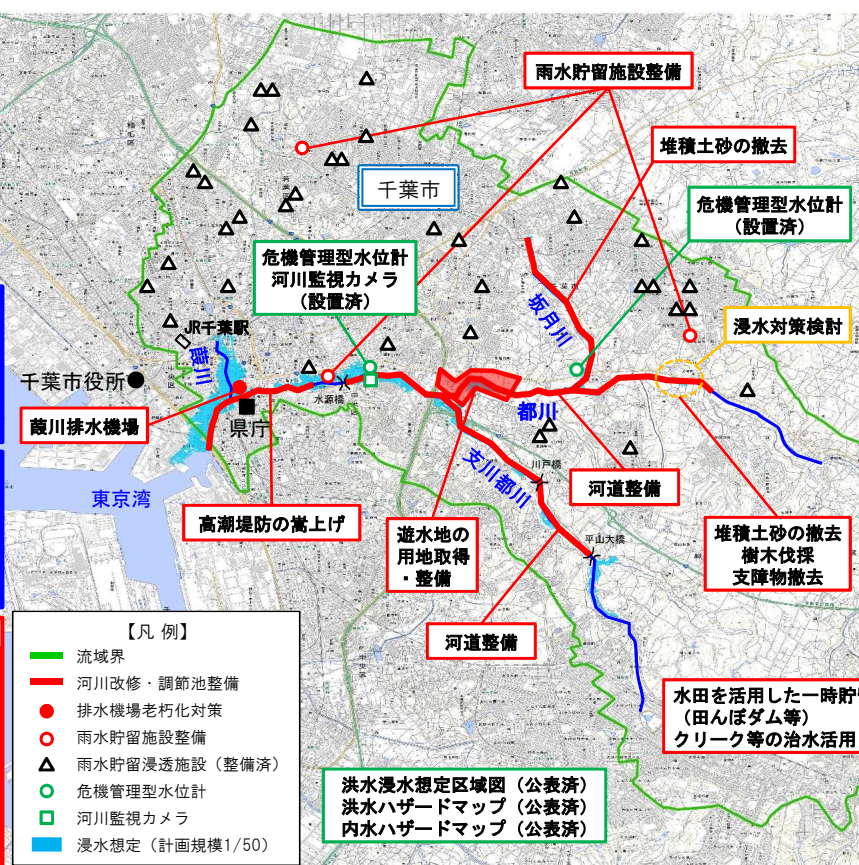
- 海老川水系では、県、市が一体となって以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 河川における対策として、土地区画整理事業に合わせて飯山満川の河道拡幅を推進するとともに、海老川調節池の本格施工に着手する。また、海老川、飯山満川、長津川等においては堆積土撤去を実施する。
 - 【中期】 飯山満川の上流区間について河道拡幅を推進するとともに、海老川調節池については貯留効果を早期に発現するため、段階的な暫定供用を目指す。また、必要に応じて、堆積土撤去を実施する。
 - 【中長期】 引き続き、飯山満川の河道拡幅、海老川調節池の整備、海老川の河床掘削等を推進し、海老川水系全体の整備完了を目指す。
- あわせて、流域の市街化率が8割を超えている状況を踏まえ、都市浸水対策の強化（排水機場の老朽化対策、公共下水道の整備等）および雨水流出抑制対策（雨水貯留浸透施設等の設置）を実施するとともに、マイ・タイムラインや避難確保計画の作成支援などのソフト対策を推進する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道拡幅、河床掘削、調節池整備	千葉県	飯山満川の河道拡幅、海老川調節池の整備、海老川の河床掘削等		
	堆積土撤去	千葉県、船橋市	3河川等で実施		
	河川護岸等の老朽化対策	千葉県、船橋市	継続して実施		
	学校の校庭等を活用したオンサイト貯留	船橋市	市立小学校、中学校等の14箇所等実施		
	排水機場の老朽化対策	千葉県、船橋市	海老川排水機場、都疎浜ポンプ場、宮本ポンプ場等実施		
	公共下水道（雨水）の整備	船橋市	暫定運用		
	雨水貯留浸透施設等の設置、自然地の保全等、透水性舗装	関係市	継続して実施		
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の策定・運用【現在策定中】（居住誘導区域の設定）	船橋市	策定・運用	定期的に見直し運用	
	立地適正化計画の策定支援	千葉県	策定・見直し支援		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	危機管理型水位計、河川監視カメラ	千葉県	増設予定	定期的に見直し運用	
	水害対応タイムラインの活用	千葉県、関係市	継続して実施		
	マイ・タイムラインの普及啓発、避難確保計画策定に向けた周知・支援、講話等	船橋市	継続して実施		
	防災ハンドブックの配布、浸水履歴公開	船橋市	継続して実施		

【事業費（R3以降の残事業費）】
■ 河川対策
全体事業費 248.4億円
河道拡幅、調節池整備等

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

○ 令和元年10月豪雨をはじめとする近年の激甚な水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、都川水系において、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速していくために、以下の取り組みを実施していくことで、年超過確率1/10程度（ただし、都川の河口から坂月川合流点は1/50程度）の規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 ・ 河道整備、遊水地の用地取得・整備
 ・ 堆積土砂の撤去、樹木伐採、支障物撤去
 ・ 高潮堤防の嵩上げ
 ・ 葭川排水機場の老朽化対策
 ・ 雨水貯留施設整備
 ・ 学校の校庭等を活用したオンサイト貯留（整備済）
 ・ 水田を活用した一時貯留（田んぼダム等）
 ・ クリーク等の治水活用

■ 被害対象を減少させるための対策
 ・ 立地適正化計画の改定（防災指針を記載）
 ・ 道路事業と連携した浸水対策検討

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 ・ 洪水浸水想定区域図、洪水ハザードマップ
 ・ 内水浸水想定区域図、内水ハザードマップ
 ・ 危機管理型水位計、河川監視カメラ
 ・ 水害対応タイムラインの活用
 ・ マイ・タイムラインの作成支援
 ・ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援
 ・ 流域治水に関する啓発・教育



- 【凡例】
- 流域界
 - 河川改修・調節池整備
 - 排水機場老朽化対策
 - 雨水貯留施設整備
 - 雨水貯留浸透施設（整備済）
 - 危機管理型水位計
 - 河川監視カメラ
 - 浸水想定（計画規模1/50）

洪水浸水想定区域図（公表済）
 洪水ハザードマップ（公表済）
 内水ハザードマップ（公表済）



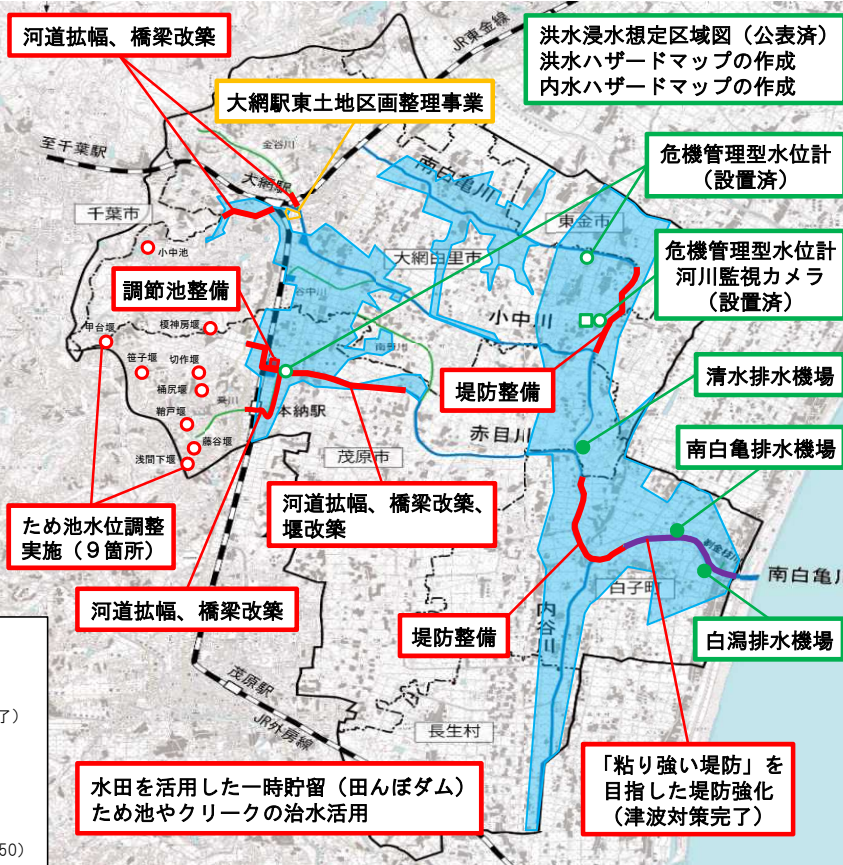
- 都川水系では、県、市が一体となって以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川における対策として、都川（支川都川下流）、支川都川（川戸橋下流）の河道整備を推進するとともに、都川や坂月川の堆積土砂の撤去等を実施する。また、下水道における対策として、雨水貯留施設整備を推進する。
 - 【中期】都川河口部の高潮堤防嵩上げ、都川（支川都川～坂月川合流点）及び支川都川（川戸橋～平山大橋）の河道整備を進める。
 - 【中長期】引き続き、都川上流部に向けて河道整備を進め、整備計画区間の完了を目指す。また、葭川排水機場の老朽化対策を計画的に実施していく。
- あわせて、水田を活用した一時貯留（田んぼダム等）やクリーク等の治水活用を推進するとともに、マイ・タイムラインや避難確保計画の作成支援などのソフト対策を実施する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道整備、遊水地の用地取得・整備	千葉県・千葉市	～支川都川・～川戸橋	～坂月川・～平山大橋	坂月川～
	堆積土砂の撤去、樹木伐採、支障物撤去	千葉県・千葉市	大草橋付近・坂月川	定期的に実施予定	
	高潮堤防の嵩上げ	千葉県	河口～水源橋下流		
	葭川排水機場の老朽化対策	千葉県	長寿命化計画に基づき計画的に実施		
	雨水貯留施設整備	千葉市	整備予定		
	水田を活用した一時貯留(田んぼダム等)	集落活動組織等	千葉県と千葉市が実施主体に対し取組拡大を促進		
	クリーク等の治水活用	施設管理者等	千葉県と千葉市が実施主体に対し取組拡大を促進		
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の改定(防災指針を記載)	千葉市	改定・運用	定期的に見直して運用	
	道路事業と連携した浸水対策検討	千葉県・千葉市	検討・準備・整備予定		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	危機管理型水位計、河川監視カメラ	千葉県・千葉市	増設予定	定期的に見直し予定	
	水害対応タイムラインの活用	千葉県・千葉市	継続して実施		
	マイ・タイムラインの作成支援	千葉県・千葉市	継続して実施		
	要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援	千葉市	継続して実施		
	流域治水に関する啓発・教育	千葉県・千葉市	継続して実施		

【事業費(R3以降の残事業費)】
 ■ 河川対策
 全体事業費 106億円
 河道整備、高潮対策等
 ■ 下水道対策
 全体事業費 25億円
 雨水貯留施設整備

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

○ 令和元年10月豪雨をはじめとする近年の激甚な水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、南白亀川水系においてハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速していくために、以下の取り組みを実施していくことで、平成8年9月台風第17号と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・河道拡幅、堤防整備、橋梁改築、堰改築
 - ・調節池整備
 - ・樹木伐採、堆積土撤去
 - ・「粘り強い堤防」を目指した堤防強化（津波対策完了）
 - ・水田を活用した一時貯留（田んぼダム）
 - ・ため池やクリークの治水活用
 - ・住宅等における各戸貯留
 - ・建築確認申請時の浸透樹設置のお願い
 - ・開発行為に対する雨水貯留浸透施設設置の指導

- 被害対象を減少させるための対策
 - ・立地適正化計画の策定支援
 - ・土地区画整理事業に合わせた宅地嵩上げ
 - ・耐水化建築の啓発（ポスター）

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 - ・洪水浸水想定区域図（公表済）
 - ・危機管理型水位計、河川監視カメラ
 - ・水害対応タイムラインの活用
 - ・マイ・タイムラインの作成支援
 - ・洪水ハザードマップの作成（想定最大規模に更新）
 - ・内水ハザードマップの作成（下水道計画）
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成支援
 - ・事業継続計画（BCP）の策定
 - ・不動産取引時の水害リスク情報提供
 - ・排水門等の整備（排水機場の耐水化）



- 【凡例】
- 流域界
 - 河川改修・調節池整備
 - 堤防強化（津波対策完了）
 - ため池水位調整実施
 - 危機管理型水位計
 - 河川監視カメラ
 - 排水門等の整備
 - 浸水想定（計画規模1/50）



水田を活用した一時貯留（田んぼダム）
ため池やクリークの治水活用

「粘り強い堤防」を
目指した堤防強化
（津波対策完了）

● 南白亀川水系では、県、市が一体となって以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】河川における対策として、赤目川では上流域の調節池整備、中流域の河道拡幅等を推進するとともに、他の河川では計画的に河川改修を実施する。また、県管理の二級河川において、樹木伐採及び堆積土撤去を実施する。

【中期】南白亀川及び金谷川では早期完成に向けて河川改修を推進し、赤目川、小中川及び乗川では計画的に河川改修を実施する。

【中長期】引き続き、赤目川、小中川及び乗川で河川改修を推進し、南白亀川水系全体の整備完了を目指す。

● あわせて、農地が多くを占める流域内の土地利用状況を踏まえ、雨水を一時的に貯留する田んぼダムやため池等の治水活用を促進するとともに、マイ・タイムラインや避難確保計画の作成支援などのソフト対策を実施する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道拡幅、堤防整備、橋梁改築、堰改築、調節池整備	千葉県、茂原市、大網白里市	南白亀川、赤目川、小中川、乗川、金谷川等の河川改修を実施		
	樹木伐採、堆積土撤去	千葉県	二級河川で実施		
	水田を活用した一時貯留（田んぼダム）	集落活動組織等	千葉県と関係市町村が実施主体に対し取組拡大を促進		
	ため池やクリークの治水活用	施設管理者等	千葉県と関係市町村が実施主体に対し取組拡大を促進		
	住宅等の各戸貯留、建築確認申請時の浸透樹設置のお願い	茂原市	継続して実施		
	開発行為に対する雨水貯留浸透施設設置の指導	関係市町村	継続して実施		
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の策定支援	千葉県	策定・見直し支援		
	土地区画整理事業に合わせた宅地嵩上げ	大網白里市	事業完了		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	危機管理型水位計、河川監視カメラ	千葉県	増設予定	定期的に見直し予定	
	水害対応タイムラインの活用	千葉県、関係市町村	継続して実施		
	マイ・タイムラインの作成支援	茂原市、東金市、大網白里市	継続して実施		
	内水ハザードマップの作成（下水道計画）	茂原市	作成		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成支援	東金市、大網白里市	継続して実施		
	事業継続計画（BCP）の策定	東金市、大網白里市	随時見直しながら実施		
	不動産取引時の水害リスク情報提供	大網白里市	継続して実施		
	排水門等の整備（排水機場の耐水化）	千葉県	排水機場1箇所完了	排水機場2箇所完了	

【事業費（R3以降の残事業費）】
■ 河川対策
全体事業費 87.1億円
河道拡幅、橋梁改築等

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

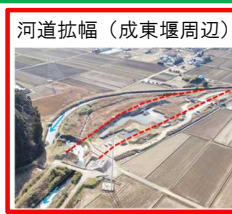
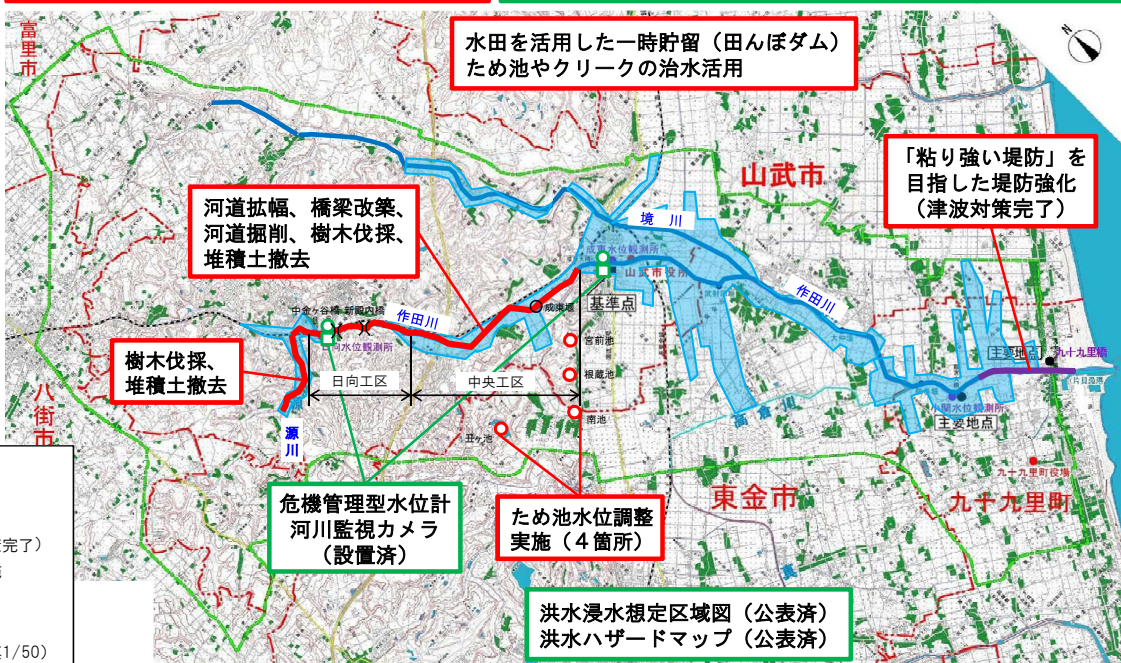
○ 令和元年10月豪雨をはじめとする近年の激甚な水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、作田川水系において、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を加速していくために、以下の取り組みを実施していくことで、年超過確率1/10の規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - ・河道拡幅、橋梁改築、河道掘削
 - ・樹木伐採、堆積土撤去
 - ・「粘り強い堤防」を目指した堤防強化（津波対策完了）
 - ・水田を活用した一時貯留（田んぼダム）
 - ・ため池やクリークの治水活用

- 被害対象を減少させるための対策
 - ・立地適正化計画の策定支援

- ・マイ・タイムラインの作成支援
- ・洪水ハザードマップ（公表済）
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成支援
- ・事業継続計画（BCP）の策定
- ・防災講話の実施
- ・防災士協会の設立と活動支援



- 【凡例】
- 流域界
 - 河川改修
 - 堤防強化（津波対策完了）
 - ため池水位調整実施
 - 危機管理型水位計
 - 河川監視カメラ
 - 浸水想定（計画規模1/50）

- 作田川水系では、県、市が一体となって以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】河川における対策として、作田川の成東堰周辺で河川切回し及び河道拡幅等を推進するとともに、新殿内橋から中金ヶ谷橋までの区間で樹木伐採及び堆積土撤去を実施する。また、源川では、樹木伐採及び堆積土撤去を実施する。
 - 【中期】作田川の中央工区の早期完成に向けて、河道拡幅及び橋梁改築等を推進する。
 - 【中長期】引き続き、作田川の日向工区の未整備区間（中金ヶ谷橋から上流区間）等で河道拡幅及び橋梁改築等を推進し、作田川指定区間の全川整備完了を目指す。
- あわせて、農地が多くを占める流域内の土地利用状況を踏まえ、雨水を一時的に貯留する田んぼダムやため池等の治水活用を促進するとともに、マイ・タイムラインや避難確保計画の作成支援などのソフト対策を実施する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道拡幅、橋梁改築、河道掘削	千葉県	成東堰周辺完了	作田川指定区間の全川整備完了	
	樹木伐採、堆積土撤去	千葉県	作田川、源川	定期的に実施予定	
	水田を活用した一時貯留（田んぼダム）	集落活動組織等	千葉県と関係市町が実施主体に対し取組拡大を促進		
	ため池やクリークの治水活用	施設管理者等	千葉県と関係市町が実施主体に対し取組拡大を促進		
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の策定支援	千葉県		策定・見直し支援	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	危機管理型水位計、河川監視カメラ	千葉県	増設予定	定期的に更新予定	
	水害対応タイムラインの活用	千葉県、関係市町		継続して実施	
	マイ・タイムラインの作成支援	東金市		継続して実施	
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成支援	東金市、山武市		継続して実施	
	事業継続計画（BCP）の策定	東金市、山武市		随時見直しながら実施	
	防災講話の実施	山武市		継続して実施	
	防災士協会の設立と活動支援	山武市		継続して実施	

【事業費（R3以降の残事業費）】
■ 河川対策
全体事業費 36.9億円
河道拡幅、橋梁改築等

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進